

1. 研究課題名：

樹木の新種比率評価と森林政策評価にもとづく  
東南アジア熱帯林保全対策の策定



2. 研究代表者氏名及び所属：

矢原徹一（九州大学大学院・理学研究院）

3. 研究実施期間：平成 28～30 年度

4. 研究の趣旨・概要

東南アジア熱帯林は世界で最も急速に消失しており、その消失を防ぐ対策が急務である。わが国は木材や紙、パームオイル等の輸入を通じてその消失に関与しており、熱帯林保全への貢献は国際的な責務である。本研究では野外調査、DNA 判定と分類学的研究により、東南アジア各地熱帯林の新種比率を算定し、新種比率の大きな地域を選定する。とくに調査が遅れている企業の保護林について調査する。一方で森林政策についての調査を実施し、新種比率が大きい地域の熱帯林について、国ごとの事情の違いを考慮した保全対策の提案を行う。

本研究は IPBES、アジア太平洋地域生物多様性観測ネットワーク（AP BON）、GEO BON、CBD 愛知目標達成への貢献を意図して実施する。

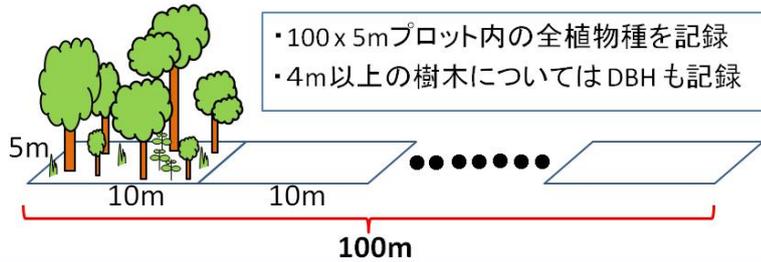
5. 研究項目及び実施体制

①樹木多様性・森林政策の評価と熱帯林保全対策の提案（九州大学）

## 6. 研究のイメージ

### < 野外調査 >

#### プロット内全種調査(花・実がなくても記録・採集)



芽生え・着生を含む全種を記録・採集

DNA配列とハーバリウム標本を利用して同定

### < 新種判定 >

#### 方法: DNA配列 + 分類学的研究 → 新種判定

例: タブノノ属の場合

**全既知種のチェックリスト作成**

**新種判定: 形態 + DNA**

**タイプ標本 (K, P, L, BO etc) との比較**

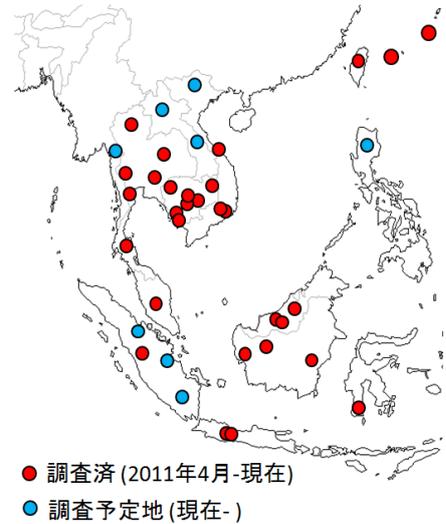
**記載論文発表**

**分類学的文献の記載チェック**

### < 森林政策の調査と保全対策の検討 >

#### 森林政策の調査と保全対策の検討

- 森林政策のレビュー(関連法・政策)
  - 企業だけの責任ではない。政府が企業に開発許可を与えているので、政策のレビューを行い、制度的な問題点を解明する。
- フィールドワーク(インタビュー・参与観察)
  - 熱帯林周辺集落の生計様式、パートナーシップの実施状況などを調査し、制度と実態の齟齬を解明、住民が協力する道を探る。
- 日本の消費者や企業がとり得る選択肢の検討
  - 熱帯林伐採に関連した製品を買ってよい条件は?
  - > 製品購入が熱帯林保全を促進する条件は?



● 調査済 (2011年4月-現在)  
● 調査予定地 (現在-)

熱帯林の減少速度が大きいインドネシア・カンボジア・ミャンマーを中心に、ラオス・フィリピン・ベトナム・マレーシアとも比較し、東南アジア諸国の中で新種比率が高く、保護上重要な地域を選定し、国ごとの事情を考慮して保全対策を提案する。